

F.F.制度（グループ制度含む）移行に伴う職場環境調査

～ 福建会員へのアンケート調査結果より～

平成19年3月

福島県建設技術協会 調査部

F.F.制度（グループ制度含む）移行に伴う『効果』と『課題』について

効 果

- 意志決定が迅速になったと感じている。
- 職員一人ひとりの責任が明確になったと感じている。
- F・F型行政組織導入の趣旨が市町村に周知されている。

課 題

- F.F.制度移行に伴い“チェック機能”の向上が図られたと感じていない。
- 職員一人ひとりの業務負担が増大したと感じている。
- 市町村の導入成果に対する評価が、あまり高くない。

F.F.制度（グループ制度含む）移行に伴う職場環境アンケート調査

アンケートの目的

平成15年度に導入された「F・F型行政組織（グループ制も含む）」について、3年経過したことから、建設行政分野における職場環境（執行管理体制、職員の意識等）について、会員に対するアンケート調査により状況を把握するため実施した。

調査概要

調査対象：「F・F型行政組織」導入時（平成15年度）前に既に会員であった者とする。

調査期間：平成17年12月～平成18年1月

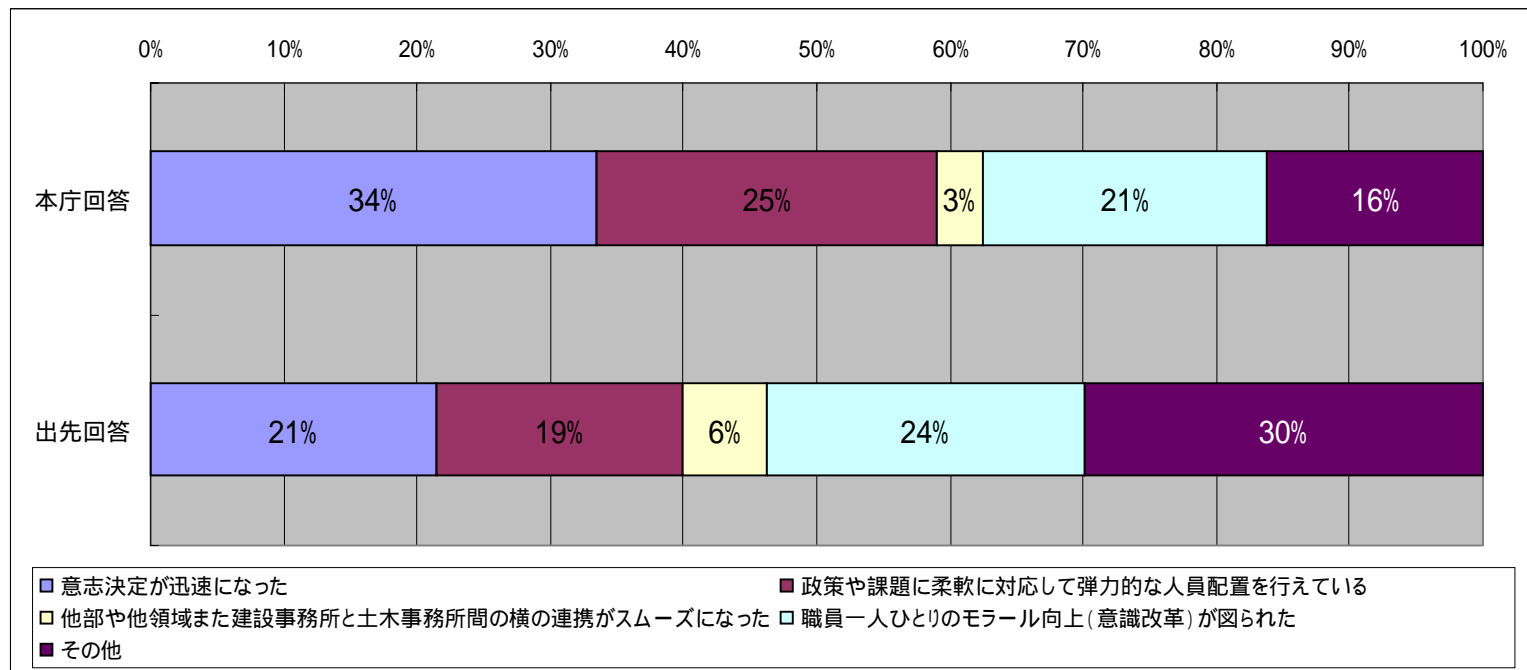
調査方法：県会員用と市町村会員用にそれぞれ設問を設定した。

回答は、選択型とし設問により自由回答欄も設けた。

F.F.制度（FF型行政組織の導入により、どのような点が良くなったか

本庁に所属する会員は、「意志決定が迅速になった」、「政策や課題に柔軟に対応して弾力的な人員配置を行えている」を選択した回答が多く、F・F型行政組織の導入を評価している。

出先機関に所属する会員は、「その他」を選択した回答が多く、自由回答として「縦割り意識の改善が図られた」、「職員一人ひとりの責任が明確になった」、「各グループの仕事の幅が広がった」等が寄せられている。

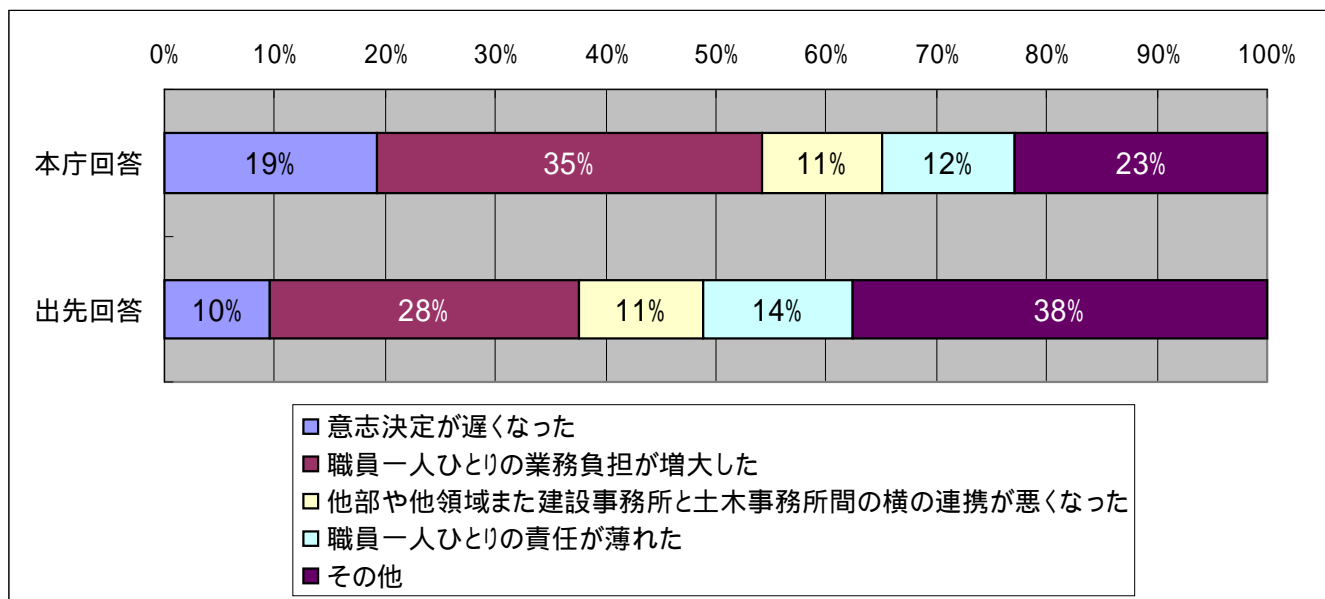


< 県会員 > F・F 型行政組織の導入により、どのような点が悪くなったか

本庁及び出先機関の所属会員が多数選択した項目は、「職員一人ひとりの業務負担が増大した」である。

本庁に所属する会員は、原因として、「担当の責任が重くなった分、業務量が増えた。」、「担当の責任が大きくなり、それに伴い業務量も増大した。」等の意見を寄せている。

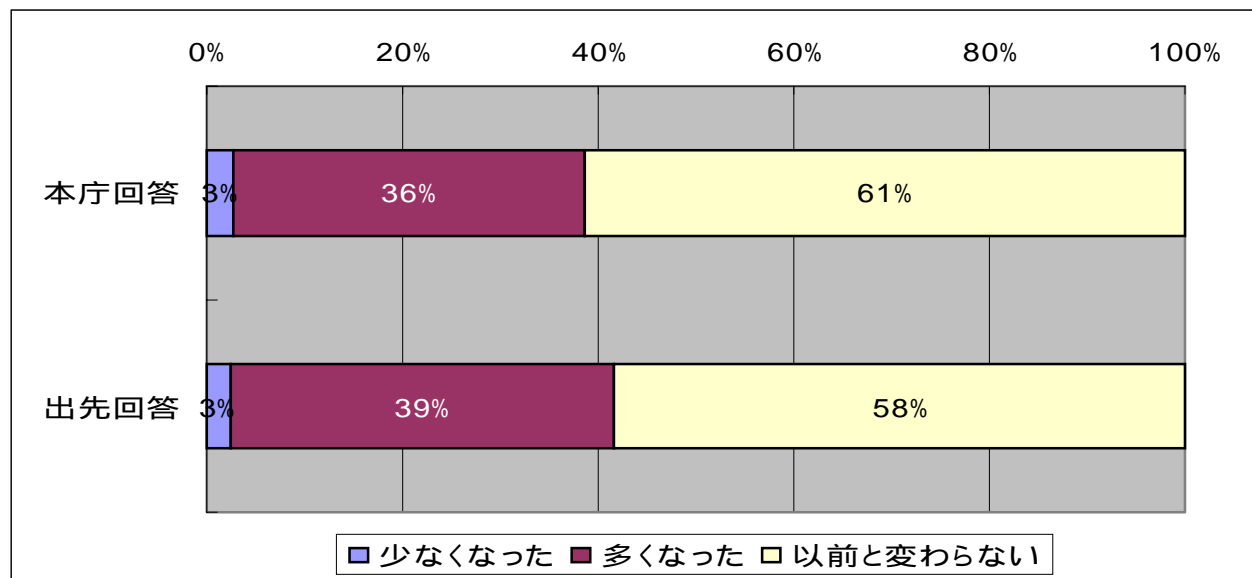
出先機関に所属する会員は、原因として、「担当に直接負担がかかるようになった。」、「やる人、やらない人の差が大きくなり、業務量の格差がひらいた」、「課長(出先)の負担が増大している」等の意見を寄せている。



< 県会員 > 全般的に、業務量は以前と比べてどう変化したと感じているのか

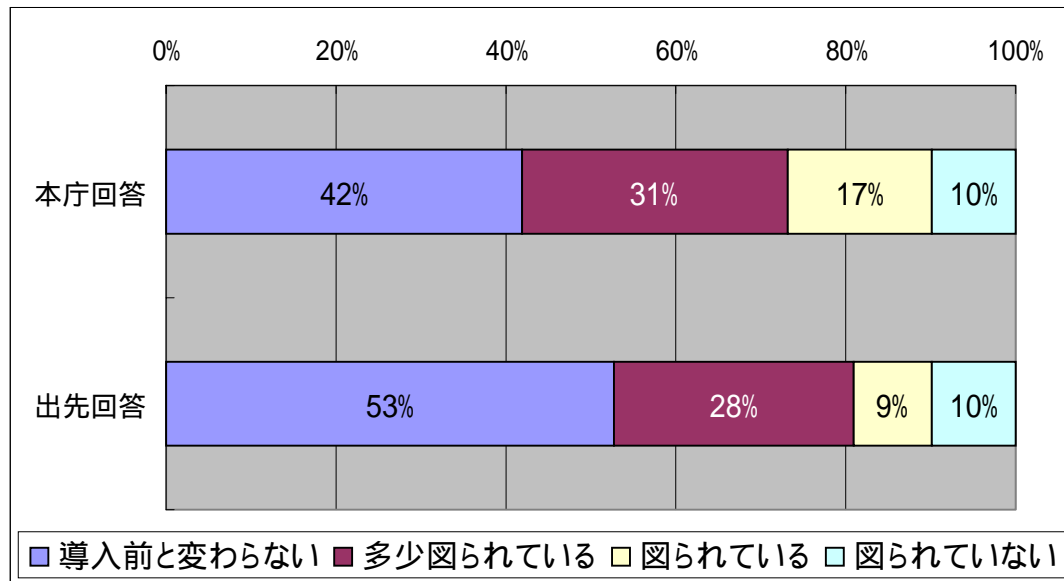
本庁及び出先機関に所属する会員が多数選択した項目は、「以前と変わらない」である。

本庁及び出先機関に所属する約4割の会員は、「多くなった」を選択している。



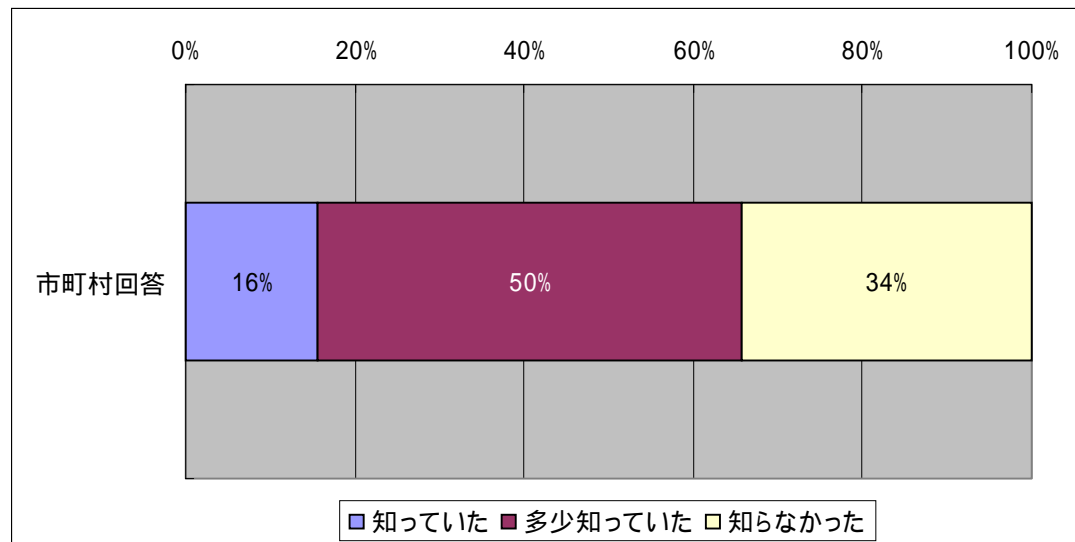
< 県会員 > 業務執行上、チェック機能の確保が図られているか

本庁及び出先機関に所属する会員の多数が選択した項目は、「導入前と変わらない」、「多少図られている」であり、F・F型行政組織の導入に伴って“チェック機能”の向上が図られたと感じていない。



<市町村会員> F・F型行政組織（グループ制も含む）導入の5つの趣旨、「政策を基本」とした組織運営、「スピード感」のある組織運営、「柔軟な」組織運営、「現場を重視」した組織運営、「職員能力と組織総合力の向上」が図られる組織運営、についてご存じでしたか。

市町村会員の多数が、「知っていた」、「多少知っていた」を選択しており、F・F型行政組織の導入趣旨が周知されている。



<市町村会員> F・F型行政組織（グループ制も含む）について、導入の趣旨を踏まえて
成果が上がっていると思いますか

市町村会員の多数が、「どちらとも言えない」を選択しており、導入の成果を評価しているのは、約20%である。

